

2008年度(2009年3月期)

第2四半期 決算説明会



2008年11月7日

株式会社 山武

目次

2008年度(2009年3月期) 第2四半期決算説明会

1	2008年度 第2四半期決算報告	P. 4
2	2008年度 通期業績計画	P.14
3	azbilグループ基盤強化	P.17
4	株主への利益還元	P.20
5	その他	P.23

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。

実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

* 数値は表示単位未満四捨五入しております

基幹事業構造

「人を中心としたオートメーション」を追求する azbilグループは、「建物」のオートメーションを進めるビルディングオートメーション事業、「工場やプラント」のオートメーションを進めるアドバンスオートメーション事業及び「生活・生命」に関わる領域でオートメーション技術を活用するライフオートメーション事業の3つの分野で事業を展開しています。

社会・生活に密着した事業でありながら、それぞれに市場の特性が大きく異なるこれら3つの事業を組み合わせ、シナジー（融合領域）を推進することで、azbilグループの持続的な成長を支えています。



■ ビルディングオートメーション事業(BA)

ビルディングオートメーションシステム、セキュリティシステムから、アプリケーションソフト、コントローラ、バルブ、センサまでのフルラインナップを自社にて開発、製造することで高機能、高品質を実現。計装設計から販売、エンジニアリング、サービス、省エネソリューション、設備の運営管理までを一貫した体制で提供し、**独自の環境制御技術で、人々に快適で効率のよい執務・生産空間の創造と、環境負荷低減に貢献します。**

■ アドバンスオートメーション事業(AA)

石油、化学、鉄鋼、紙パルプなどの素材産業や、自動車、電気・電子、半導体、食品などの加工・組立産業の課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装・エンジニアリング、保守サービスを提供。先進的な計測制御技術を発展させ、**安全で人の能力を發揮できる生産現場の実現を目指すとともに、お客さまとの協働を通じ新たな価値を創造します。**

■ ライフオートメーション事業(LA)

建物市場や工業市場で永年培った計測・制御・計量の技術と、心のこもった人の手による行き届いたサービスを、ガス水道などのライフライン、生活の場、介護・健康支援などに展開、「**人々のいきいきとした暮らし**」に貢献します。

1 2008年度 第2四半期決算報告

2008年度 第2四半期 経営成績

● 事業環境急変の中、売上高・利益はほぼ期初計画を達成

- BA事業は完工案件の端境期にあたることから、またAA事業は市況の悪化見通しから、期初計画では若干の減収・減益を見込む*。

*売上高1,135億円(前年同期比△1%)、営業利益66億円(前年同期比△8%)で計画

- 期初計画に対して、売上高は1,115億円と若干の未達(△20億円、△1.8%)ながら、営業利益は67億円(+1億円、+0.8%)と計画を達成。
- 前年同期比では、売上高は32億円(△2.8%)、営業利益は5億円(△7.6%)の減少。

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)						
		2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	計画比増減	
				(B)-(A)	%		(B)-(C)	%
連結 売上高	1,147 億円	1,115 億円	△ 32 億円	△ 2.8 %	1,135 億円	△ 20 億円	△ 1.8 %	
営業利益	72 億円	67 億円	△ 5 億円	△ 7.6 %	66 億円	1 億円	0.8 %	
売上比%	6.3 %	6.0 %			5.8 %			
経常利益	74 億円	66 億円	△ 8 億円	△ 10.6 %	65 億円	1 億円	1.9 %	
当期利益	33 億円	33 億円	0 億円	0.1 %	36 億円	△ 3 億円	△ 8.0 %	

セグメント別 売上・営業利益

- BA事業は、完工案件の端境期にあたること等から前年同期比で売上高は14億円(3.2%)減少したが、営業利益は2億円(4.8%)の増加。
- AA事業は、市況悪化・円高の影響を受け前年同期比で売上高は21億円(4.3%)、営業利益は7億円(17.3%)の減少。但し、営業利益は一段の経費削減、利益性の改善により、計画比では2億円(6.5%)超過。
- LA事業は、金門製作所の収益改善が進み、のれん代償却負担増(6億円)を吸収して利益改善。

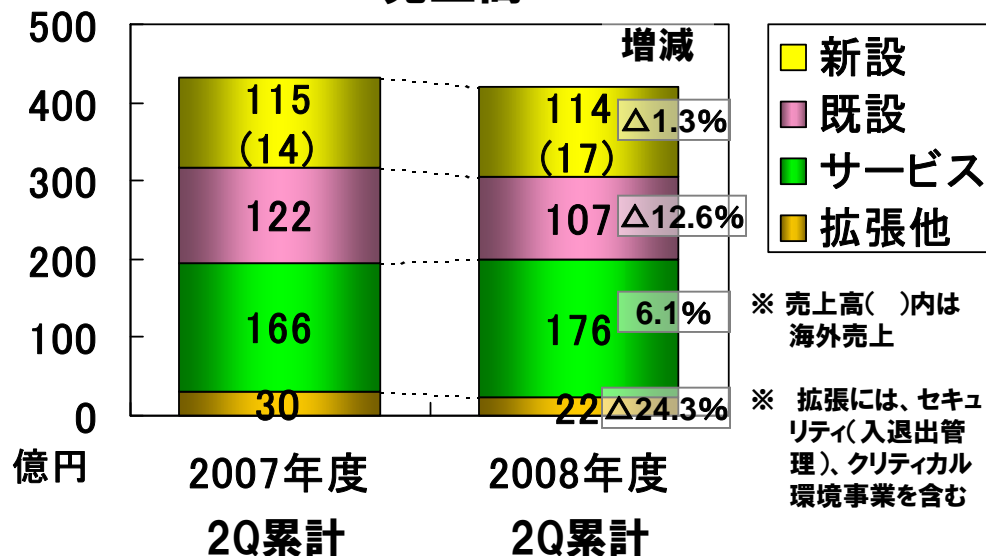
	2007年度 (2008年3月期)		2008年度 (2009年3月期)				
	2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	計画比増減	
			(B)-(A)	%		(B)-(C)	%
BA事業							
売上高	433 億円	419 億円	△ 14 億円	△ 3.2 %	425 億円	△ 6 億円	△ 1.4 %
営業利益	32 億円	33 億円	2 億円	4.8 %	34 億円	△ 1 億円	△ 2.1 %
売上比%	7.3 %	7.9 %			8.0 %		
AA事業							
売上高	495 億円	474 億円	△ 21 億円	△ 4.3 %	490 億円	△ 16 億円	△ 3.3 %
営業利益	41 億円	34 億円	△ 7 億円	△ 17.3 %	32 億円	2 億円	6.5 %
売上比%	8.3 %	7.2 %			6.5 %		
LA事業							
売上高	185 億円	187 億円	2 億円	1.0 %	188 億円	△ 1 億円	△ 0.8 %
営業利益	△ 2 億円	△ 1 億円	1 億円	-	△ 1 億円	△ 0 億円	-
売上比%	△ 1.2 %	△ 0.5 %			△ 0.3 %		
その他							
売上高	43 億円	42 億円	△ 1 億円	△ 3.3 %	42 億円	△ 0 億円	△ 0.9 %
営業利益	1 億円	△ 0 億円	△ 1 億円	-	0 億円	△ 0 億円	-
売上比%	2.2 %	△ 0.0 %			0.7 %		

ビルディングオートメーション事業

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)		
	2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減	
			(B)-(A)	%
売上高	433 億円	419 億円	△ 14 億円	△ 3.2 %
営業利益	32 億円	33 億円	2 億円	4.8 %
売上比%	7.3 %	7.9 %		
受注高	611 億円	635 億円	23 億円	3.8 %
受注残高	527 億円	581 億円	54 億円	10.2 %

新規・既設建物市場で大型案件完工の端境期にあたったこと等から、売上高は前年同期比減収となったが、体質強化に取り組んだ結果、営業利益は33億円と期初計画をほぼ達成し、前年同期比4.8%の増加。

売上高



- ◆ 海外を含め新規建物はほぼ横這い。
- ◆ 規制強化を背景に環境負荷(CO₂)低減ニーズは底堅いものの、制度変更の影響で大型ESCO案件完工が前年同期に集中したことの影響で既設建物は減収。サービスはストックを積み重ね増収。
- ◆ 拡張に含まれるセキュリティ(入退出管理)事業は、前年同期に大型案件があった反動で減収となったが、安全・情報漏洩対策ニーズで事業環境は堅調。

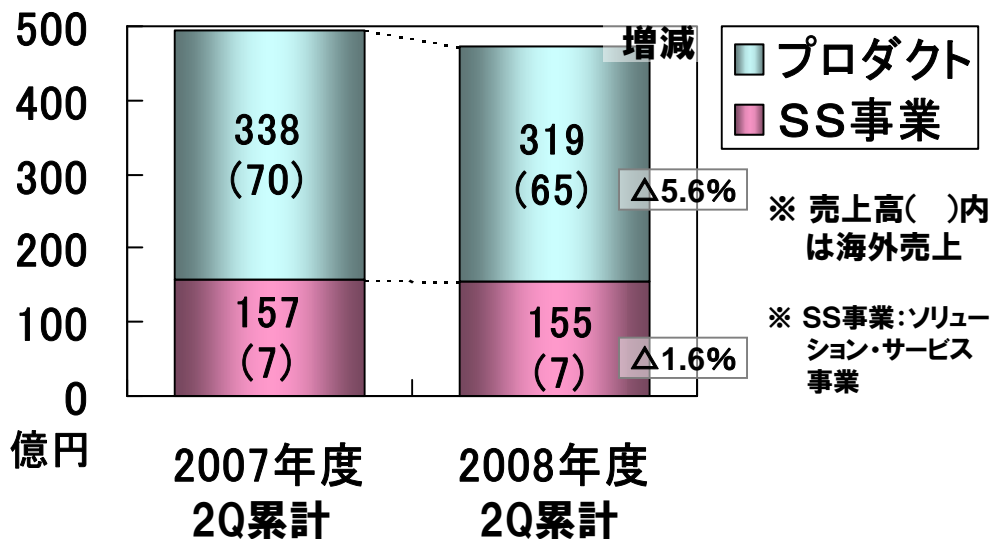
アドバンスオートメーション事業

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)		
	2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減	
			(B)-(A)	%
売上高	495 億円	474 億円	△ 21 億円	△ 4.3 %
営業利益	41 億円	34 億円	△ 7 億円	△ 17.3 %
売上比%	8.3 %	7.2 %		
受注高	528 億円	526 億円	△ 2 億円	△ 0.4 %
受注残高	315 億円	309 億円	△ 6 億円	△ 1.9 %

国内製造業の設備投資全般が弱含み、前年同期比減収・減益。但し、収益改善施策に取り組み、減収、円高の影響をカバーし、営業利益は34億円と期初計画を6.5%(2億円)超過。

- ◆ 国内では、半導体、電子部品、自動車、工作機械などの市場を中心に設備投資抑制が強まり、原油高、景況悪化の影響は素材産業にも波及。
- ◆ 海外では、中国、東南アジアは堅調だったものの、欧米での設備投資減速、円高の影響を受ける。

売上高

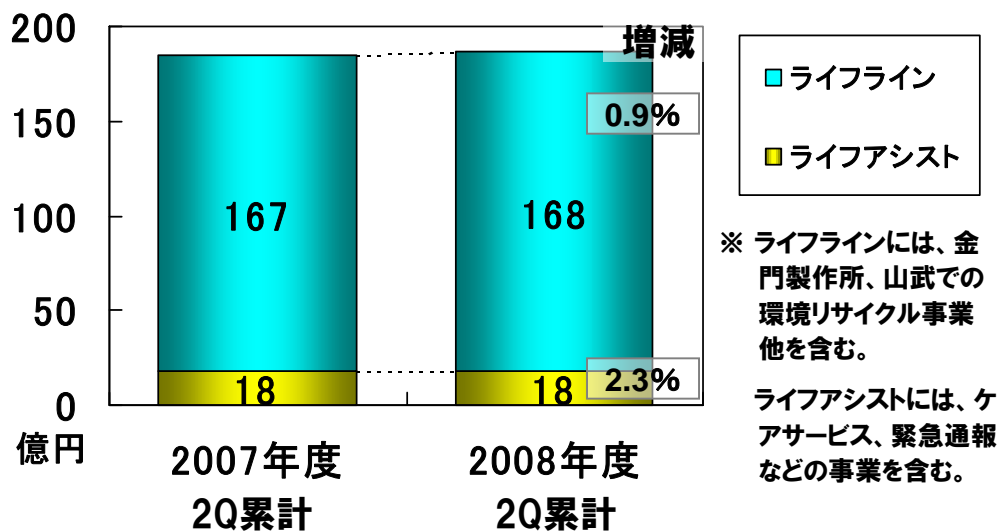


ライフオートメーション事業

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)		
	2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減	
			(B)-(A)	%
売上高	185 億円	187 億円	2 億円	1.0 %
営業利益	△ 2 億円	△ 1 億円	1 億円	- %
売上比%	△ 1.2 %	△ 0.5 %		
受注高	190 億円	194 億円	4 億円	2.0 %
受注残高	16 億円	19 億円	3 億円	19.0 %

LA事業ではライフライン分野の中核である金門製作所を中心に収益構造の改善が進み、金門製作所完全子会社化に伴うのれん代償却負担増を吸収し、ほぼブレークイーブンを達成。

売上高



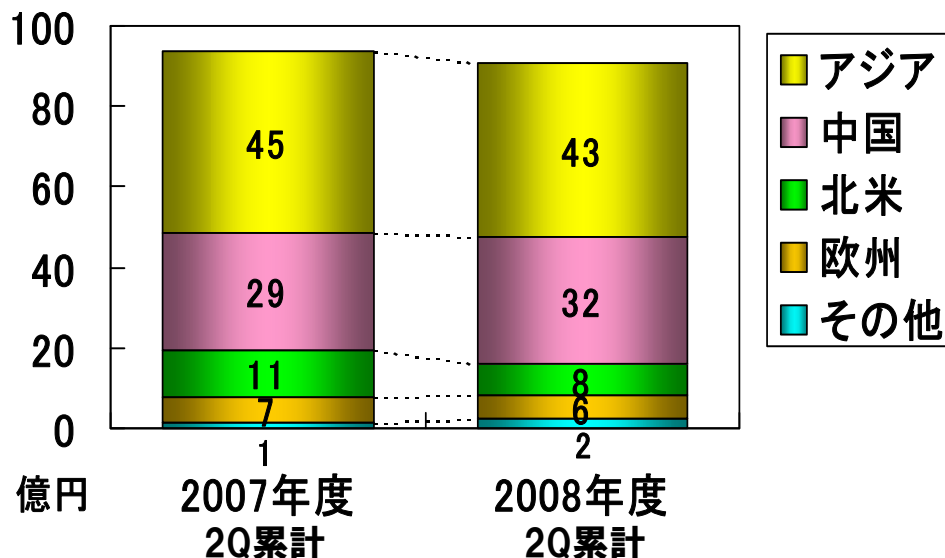
- ◆ 金門製作所では、LPガスメーターや工場向けレギュレーターの需要拡大など市況の改善に加えて、完全子会社化の下での事業基盤整備・体質強化が着実に進行。
- ◆ LA事業を構成するその他の事業においても、不採算事業の縮小・撤退などが進み利益性が改善。

海外売上高

- 円高およびサブプライムローン問題の影響を受け、全体として売上高は前年同期比微減。

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)		
	2Q累計実績(A) (2007.11.8)	2Q累計実績(B) (2008.11.7)	前年比増減	
			(B)-(A)	%
売上高	94 億円	91 億円	△ 3 億円	△ 3.3 %

売上高



- ◆ 韓国を除くアジア地域の現地法人売上げは堅調なもの、円高の影響を受けアジア地域としては減収。
- ◆ 中国は円高の影響はあるものの底堅く伸長。
- ◆ 北米、欧州は現地売上げが減少したことに加え、為替の影響もあり減収。

※ 国際事業(海外売上高)は内数です。

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上げの集計で間接輸出は含んでおりません。 Copyright © 2008 Yamatake Corporation All Rights Reserved.

連結財政状況

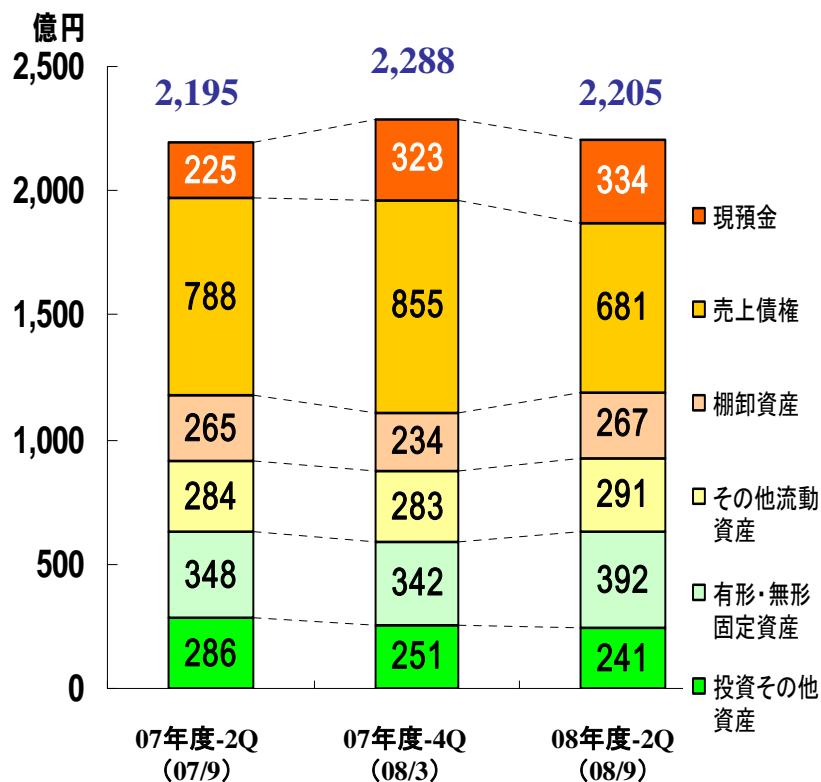
- 総資産は、売上債権の減少を主因に、前連結会計年度末4%(83億円)減少の2,205億円。
- 金門製作所完全子会社化に伴う新株発行により、資本剰余金が46億円増加。

(単位: 億円)

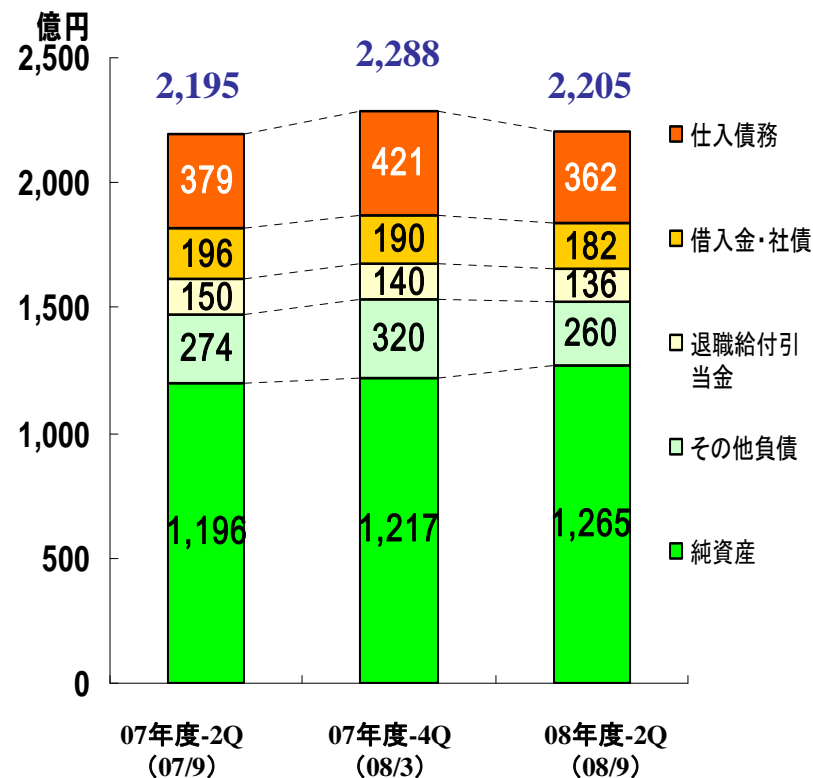
	07年度-2Q (07/9)	A 07年度-4Q (08/3)	B 08年度-2Q (08/9)	B-A 増減	07年度-2Q (07/9)	A 07年度-4Q (08/3)	B 08年度-2Q (08/9)	B-A 増減	
流動資産	1,561	1,696	1,573	△ 123	流動負債	768	871	754	△ 117
現預金	225	323	334	11	仕入債務	379	421	362	△ 59
売上債権	788	855	681	△ 174	短期借入金/社債	140	144	147	3
棚卸資産	265	234	267	33	その他	249	305	244	△ 61
その他	284	283	291	8					
固定資産	634	593	632	40	固定負債	230	201	186	△ 14
有形固定資産	296	293	303	10	長期借入金/社債	56	45	35	△ 11
無形固定資産	52	49	89	40	退職給付引当金	150	140	136	△ 4
投資その他の資産	286	251	241	△ 10	その他	25	15	16	0
					負債合計	999	1,071	940	△ 131
					株主資本	1,117	1,162	1,218	57
					- 資本金	105	105	105	△ 0
					- 資本剰余金	126	126	172	46
					- 利益剰余金	885	937	948	11
					- 自己株式	△ 0	△ 7	△ 7	△ 0
					評価・換算差額等	67	42	32	△ 9
					- その他有価証券評価差額金	61	39	33	△ 6
					- 繰延ヘッジ損益	△ 0	0	0	△ 0
					- 為替換算調整勘定	5	3	△ 1	△ 4
					- 少数株主持分	13	14	14	1
					純資産合計	1,196	1,217	1,265	48
資産合計	2,195	2,288	2,205	△ 83	負債及び純資産合計	2,195	2,288	2,205	△ 83

連結財政状況の推移

資産推移



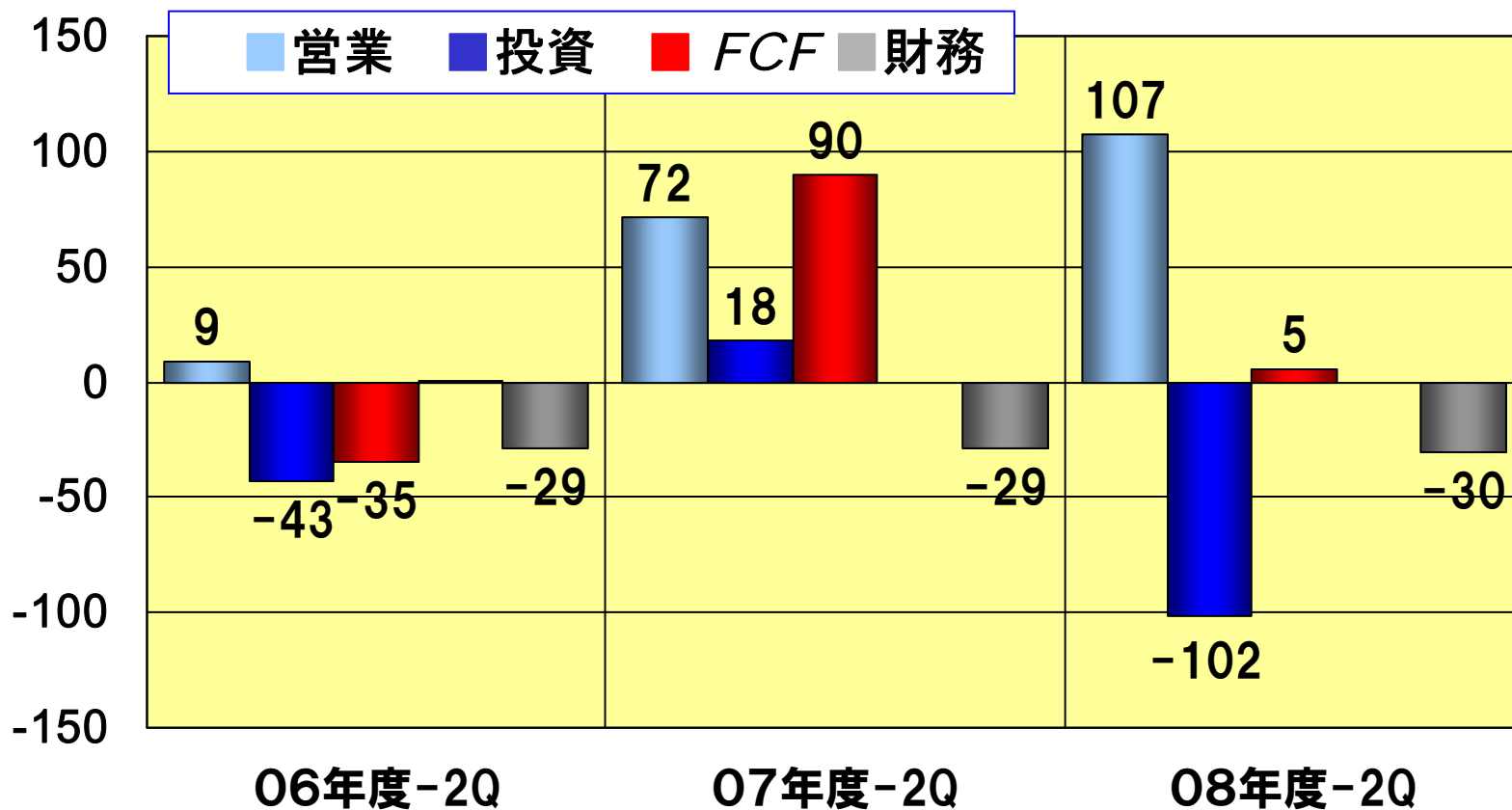
負債・資本推移



連結キャッシュフローサマリー

- 売上債権の減少により、営業キャッシュフローが大幅に増加。
- 投資キャッシュフローは、有形固定資産並びに短期有価証券の取得によるマイナス。

(単位: 億円)



2 2008年度 通期業績計画

2008年度 連結業績計画

● さらなる体質強化に取り組み営業利益200億円台を確保

国内設備投資の減少、世界的金融危機による各国経済の悪化や円高など、事業環境は厳しさを増すものと予想されるが、「基盤を確たるものにする期」と位置づけた中期経営計画を着実に実行し、営業利益200億円台を確保する。

		2007年度 (2008年3月期)		2008年度 (2009年3月期)				
		通期実績(A) (2008.5.9)	通期見通(B) (2008.11.7)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	計画比増減	
				(B)-(A)	%		(B)-(C)	%
連結	売上高	2,486 億円	2,450 億円	△ 36 億円	△ 1.4 %	2,530 億円	△ 80 億円	△ 3.2 %
	営業利益	205 億円	202 億円	△ 3 億円	△ 1.4 %	211 億円	△ 9 億円	△ 4.3 %
	売上比%	8.2 %	8.2 %			8.3 %		
	経常利益	204 億円	197 億円	△ 7 億円	△ 3.4 %	208 億円	△ 11 億円	△ 5.3 %
	当期利益	107 億円	107 億円	△ 0 億円	△ 0.1 %	122 億円	△ 15 億円	△ 12.3 %

2008年度 セグメント別業績計画



創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

- BA事業は、景況悪化による既設建物市場への影響等により期初計画を若干下回るものの、売上1,000億円台を確保し、前年度比6.4%の増益を計画する。
- AA事業は、国内設備投資の減速、円高など事業環境が厳しさを増すことが見込まれるが、安全・安定操業や環境対応、高度制御ニーズに対するソリューション力の強化などの事業変革をすすめるとともに、徹底した体質強化に取り組むことで、売上高1,000億円台を維持する。
- LA事業では、金門製作所が、市況の回復と完全子会社化の下での事業基盤整備・体質強化の徹底により利益改善を見込む。その他のLA事業においても体質強化を進めLA事業全体で黒字化を見込む。

	2007年度 (2008年3月期)	2008年度 (2009年3月期)					
	通期実績(A) (2008.5.9)	通期見通(B) (2008.11.7)	前年比増減		期初計画(C) (2008.5.9)	計画比増減	
			(B)-(A)	%		(B)-(C)	%
BA事業							
売上高	1,005 億円	1,009 億円	4 億円	0.4 %	1,030 億円	△ 21 億円	△ 2.0 %
営業利益	118 億円	125 億円	7 億円	6.4 %	127 億円	△ 2 億円	△ 1.6 %
売上比%	11.7 %	12.4 %			12.3 %		
AA事業							
売上高	1,054 億円	1,004 億円	△ 50 億円	△ 4.8 %	1,060 億円	△ 56 億円	△ 5.3 %
営業利益	89 億円	76 億円	△ 13 億円	△ 14.8 %	82 億円	△ 6 億円	△ 7.3 %
売上比%	8.5 %	7.6 %			7.7 %		
LA事業							
売上高	365 億円	371 億円	6 億円	1.7 %	377 億円	△ 6 億円	△ 1.6 %
営業利益	△ 3 億円	1 億円	4 億円	-	1 億円	1 億円	100.0 %
売上比%	△ 0.8 %	0.3 %			0.1 %		
その他							
売上高	84 億円	82 億円	△ 2 億円	△ 2.5 %	85 億円	△ 3 億円	△ 3.5 %
営業利益	1 億円	0 億円	△ 1 億円	-	1 億円	△ 1 億円	-
売上比%	1.0 %	0.0 %			1.1 %		

* 金門製作所完全子会社化に伴う2008年度のれん代償却負担は約13億円

3 azbil グループ基盤強化

“基盤を確たるものにする” ために
集中と分散による効率改善、シナジー創出



創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

■ グループワイドでの営業拠点の移転・統合

本社機能移転・首都圏営業統合(2005年)
に続き、全国のazbilグループ営業拠点を
地域毎に統合

- ▶ azbilグループ内のシナジー向上とリソース集中による業務効率向上
- ▶ 拠点集約による経費効率改善

順次、全国のazbilグループ営業拠点の
移転・統合を計画

第1弾 グループ本社機能・ 東京地区営業拠点集約



大塚浅見ビル(豊島区)

山武商会本社

金門製作所本社

ロイヤルコントロールズ本

山武 城北営業所、城西営業所、
東京エンジニアリングセンター

■ 金門製作所を含めた生産機能の再配置 (金門・山武ジャンプアップ計画)

2006年からの山武の生産機能再配置に続く金門製作所を
含めた第2次生産再編

➤ 京都工場での電磁流量計生産

山武 湘南工場から電磁流量計の生産を金門製作所京都工
場へ全面移転

➤ 金門製作所生産拠点再編

- 水道メータ3工場(青森・仙台・京都)を1工場(青森)に集約
- 2工場(岩瀬、白河)を1工場(白河)へ集約



アジヤ最大規模を誇る京都工場実流校正装置



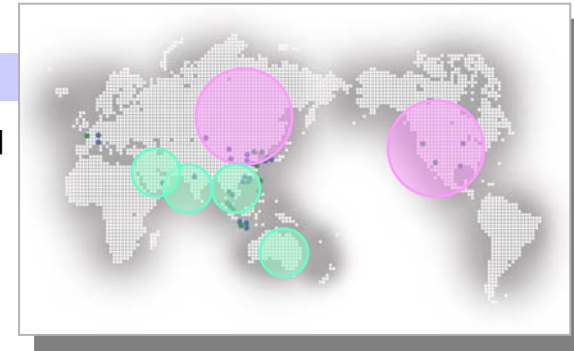
“基盤を確たるものにする” ために
事業体制見直し、強化による国際事業伸長

azbil
グループ

創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

■ 北米・中国事業会社の統合 (2009年1月)

顧客接点拡大・提案力強化、リソース共有化によるオペレーション効率向上を狙いとして統合



● **Azbil North America, Inc.** (アズビル ノースアメリカ株式会社)

– 北米現地法人2社を合併

● **阿自倍尔自控工程(上海)有限公司** (アズビルコントロールソリューション(上海)有限公司)

– 中国現地法人のうち独資の販売会社3社の営業を一本化

■ 新規エリアへの事業展開

- 山武ベトナム有限会社 (ハノイ、2008年6月)
- 株式会社 山武 インド駐在員事務所 (ニューデリー、2008年6月)
- 株式会社 山武 中東支店 (ドバイ、2008年9月)
- Environmental Automation 社とBS販売店契約 (オーストラリア、2008年9月)

■ azbilを冠した社名へ変更、azbilブランドをグローバル市場で確立

段階的に全てのグループ海外現地法人社名をazbilを冠した社名に変更予定

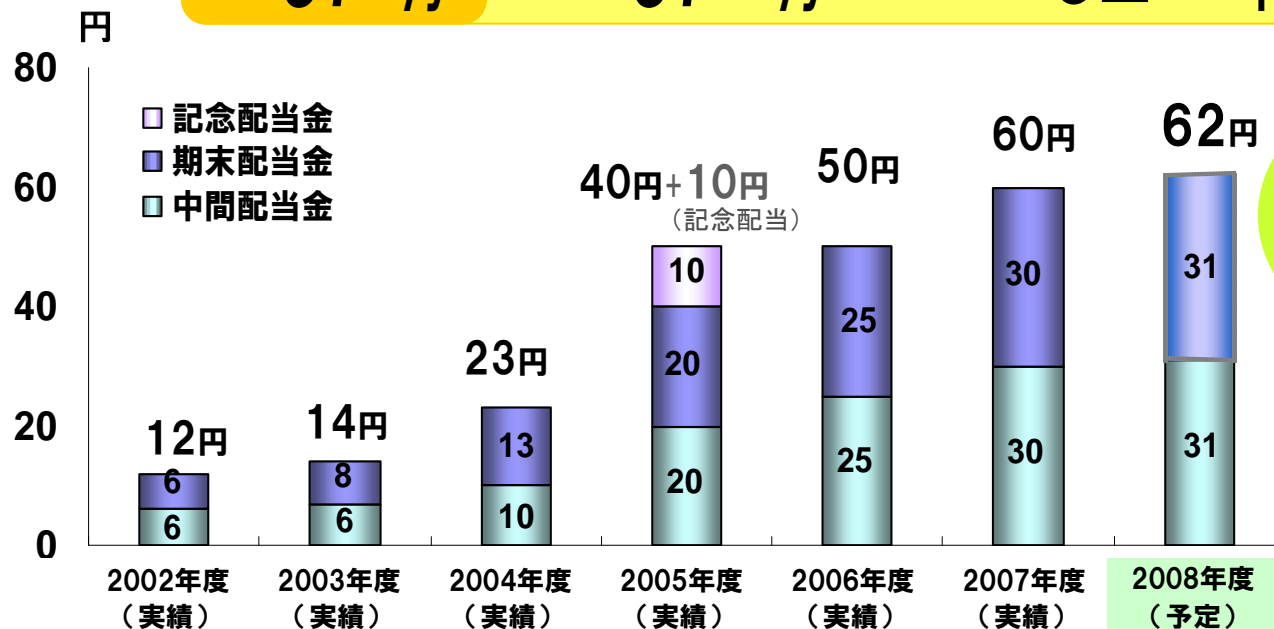
4 株主への利益還元

2008年度中間配当・期末配当予定

● 公表通り中間配当・期末配当とも一株あたり31円、
年間で一株あたり62円の配当を予定。

(中間) (期末) (年間)

2008年度 **31 円 + 31 円 = 62 円**



**普通配当
6期連続増配**

	2002年度 (実績)	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2006年度 (実績)	2007年度 (実績)	2008年度 (予定)
年間配当金	12 円	14 円	23 円	50 円	50 円	60 円	62 円
純資産配当率	0.9 %	1.1 %	1.7 %	3.5 %	3.2 %	3.7 %	3.7 %
配当性向	16.6 %	31.8 %	45.6 %	37.6 %	34.6 %	41.2 %	43.4 %

- **株主の皆さまへの利益還元と機動的な資本政策遂行のため
自己株式の取得実施を予定**

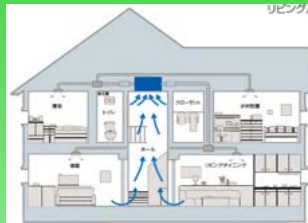
2008年11月7日 取締役会において自己株式取得を決議

- (1) **取得対象株式の種類 普通株式**
- (2) **取得しうる株式の総数 100万株(上限)**
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 1.3%)
- (3) **株式の取得価額の総額 20億円(上限)**
- (4) **取得期間 2008年11月10日 ~ 2008年12月9日**

5 その他

新事業領域に 挑戦する商品

- 空気清浄効果に特化したリーズナブル住宅用セントラル“空気清浄”システム



- バイオクリーンルームの浮遊微生物管理に最適な細菌センサ

- 既設高層オフィスビル向けの照明安定器

金門製作所
とのシナジー製品



基盤産業を支える商品



- 過酷な環境でも設置可能な防爆2点形リミットスイッチ

- 微小流量を高速、高精度で制御加工、品質向上に寄与するデジタルマスフローコントローラ



- 世界最高水準の性能を実現した新型差圧・圧力発信器

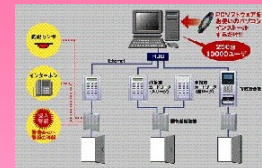


- 食の安全に貢献するサニタリ形オイルフリー圧力センサ

テムテック研究所
とのシナジー製品

安心・安全な執務、生産環境 を実現するシステム商品

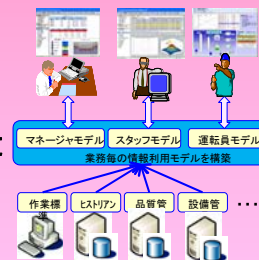
- 簡易で高度な出入管理を実現したシステム“IDSMART”



- 標準規格(SSFC)に対応したセキュリティシステム



- 意思決定の迅速化を支援する製造情報管理システム“PREXION”



- クールビズによる省エネルギー効果を可視化するクールビズ評価機能システム

	2007年度 (2008年3月期)		2008年度 (2009年3月期)		増減 (B) - (A)	%
	通期実績 (A)	上期実績	下期予想	通期計画 (B)		
●設備投資						
山武	37 億円	29 億円	31 億円	60 億円	23 億円	62.4 %
連結子会社	8 億円	5 億円	7 億円	12 億円	4 億円	51.1 %
連結	45 億円	34 億円	38 億円	72 億円	27 億円	60.4 %
●減価償却費						
山武	28 億円	15 億円	16 億円	31 億円	3 億円	10.8 %
連結子会社	16 億円	7 億円	8 億円	15 億円	△ 1 億円	△ 6.1 %
連結	44 億円	21 億円	25 億円	46 億円	2 億円	4.6 %
●研究開発費	98 億円	46 億円	54 億円	100 億円	2 億円	1.6 %
売上高比%	4.0 %	4.2 %	4.0 %	4.1 %		

多岐にわたる課題に グループ全体でお応えします

azbil
グループ

創業1906年 山武の進化
人を中心としたオートメーション

2008年10月1日より 山武グループはグループ名を azbil グループに変更いたしました

1906年 創業 「苦役からの開放」

1953年 米国ハネウエル社と資本提携 「First in Control」

1998年 山武ハネウエル(株)を(株)山武と商号変更

2006年 創業100周年 山武の2世紀に向けて
グループ理念「人を中心としたオートメーション」、グループシンボル
「azbil」を制定

2008年 グループ名称を「azbilグループ」に変更

「人を中心としたオートメーション」の商品・技術・サービスを通じ、グループ全員が、お客様と共に課題解決に取り組み、社会やお客様の安心・快適・達成感の実現、地球環境貢献にかかわる多岐にわたる課題にグループ全体でお応えします。

